

山口情報芸術センター [YCAM] 集中ワークショップ

SFPC Summer 2019 in Yamaguchi

2019年9月4日(水)～11日(水) 8日間通し

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB、スタジオD

詩的なコンピューテーション？

ニューヨーク発の表現の学校が山口に上陸！

山口情報芸術センター [YCAM] では、ニューヨークを拠点に展開する、コンピューターを用いた表現のための学校「School for Poetic Computation (以下SFPC)」のカリキュラムを実施する集中ワークショップ「SFPC Summer 2019 in Yamaguchi」を開催します。

SFPCは、コンピューターの根幹にある基本的な概念である「コンピューテーション(計算)」を用いた様々な表現方法を学ぶ10週間のカリキュラムを提供しており、世界中のクリエイターや教育機関から注目を集めています。

アメリカ国外では初の開催となる今回のワークショップでは、SFPCのカリキュラムからYCAM向けにアレンジしたものに加え、YCAMがこれまで開発してきた教育プログラムと融合させたものを1週間に渡って実施。実際に手を動かしながら、「創造とコンピューターとの関係性」の可能性について議論していきます。

創造や表現を起点に新たなコミュニティを形成しようとする本イベントは、YCAMが追求してきた「新たな学びのかたち」の現在形を提示するものとなるでしょう。ぜひこの機会にご参加ください。

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

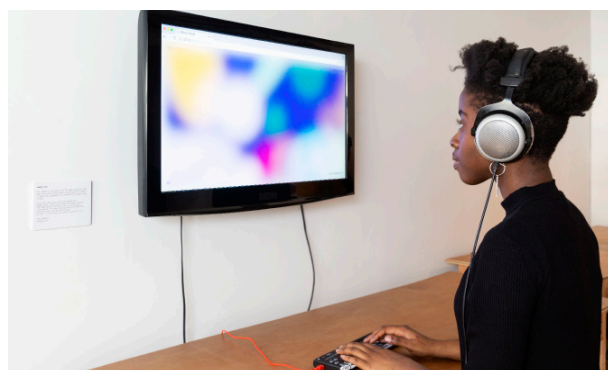
[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



上: SFPCの講師と受講生(2018年)

下: 受講生の制作した作品(2018年)

新たな「学びのかたち」を探求するYCAMの取り組み



「YCAM InterLab Camp vol.3: パーソナルバイオテクノロジー」の様子
(2019年3月/撮影:田邊アツシ)

YCAMでは開館以来、メディア・テクノロジーを用いたアート作品の制作と並行して、アートセンターならではの「新たな学びのかたち」を模索してきました。

例えば、高度情報社会への理解を深めるための教育プログラム「オリジナルワークショップ」は、作品制作で培ったノウハウを応用して開発。山口市内の小中学校を中心に開催してきました。また、ここから派生した「コロガル公園シリーズ」は、メディア・テクノロジーが埋め込まれた公園型の遊び場環境として、毎回盛況を博しています。

そのほかにも、専門的な人材育成を目的とした取り組みも継続的におこなっています。今後の作品の制作に使用される先端的なツールを紹介し、その使用方法を学ぶ「YCAM InterLab Camp (インターラボキャンプ) シリーズ」や、メディア・テクノロジーを応用して地域課題の解決や地域資源の発見につながるための方法について学ぶ「RADLOCAL (ラッドローカル) シリーズ」などを開催しています。国内外から集まった参加者が互いの専門領域を横断させながらともに学び合うことで、人材の育成にとどまらず、高度な専門性を持ったコミュニティがYCAMの周辺に形成されつつあります。

このようにメディア・テクノロジーと表現をベースに様々な「新たな学びのかたち」を追求してきたYCAMが今回開催するのは、コンピューターを用いた表現を学ぶための集中ワークショップです。ニューヨークからSFPCを講師に招き、改めて「創造とコンピューターとの関係性」の可能性について検討していきます。

■ オリジナルワークショップ

2003年の開館以来、YCAMが開発に取り組んでいる、メディア・テクノロジーのメリット/デメリットについて、体験を通じて学ぶことができる教育プログラム。代表的なものに「ケータイ・スパイ・大作戦」「感覚アスレチック」など(いずれもキッズデザイン賞受賞)。近年は「未来の山口の授業」として、市内の小中学校で実施しているほか、定期的にYCAMの館内で実施している。

■ コロガル公園シリーズ

不安定な床を始めとする物理的環境と、改変可能な映像/音響/照明といったメディア的環境が融合した空間が特徴の「遊び場環境」。2012年に発表したコロガル公園以来、山口を中心に国内各所で展開している。

■ YCAM InterLab Camp シリーズ

第一線で活躍する技術者や研究者を迎え、今後のメディアアート作品の制作に使用されるツールについて紹介し、国内外の参加者とともに学ぶ集中ワークショップ・シリーズ。2008年の「openFrameworks」を皮切りに、2011年~12年は「TECHTILE」、2019年は「パーソナル・バイオテクノロジー」を題材に集中ワークショップを開催した。

■ RADLOCAL シリーズ

地域社会をリードするエキスパートを育成し、知識の伝達と実践の場が一体化したプラットフォームを形成する集中ワークショップ。2014年に初開催したのち、2016年にビッグデータとセンシングをテーマにした第2回を開催。いずれも切り口として「メディア・テクノロジー」に着目している。

創造とコンピューターのさらなる可能性を探求するSFPCの挑戦



作品のプロトタイプについて議論する受講生の様子
(2018年)

SFPCは2013年、アーティストのザカリー・リーバーマンとチェ・テユンらがニューヨークで立ち上げた、コンピューターを用いたアートのための学校です。大きな特徴として、単に「コンピューターの使い方」を学習するのではなく、「コンピューターをどう自分の表現と美的探求のためのツールとするか」という点を重視していることが挙げられ、技術的な知識以外にもコンピューターの社会的背景を理解し、未来のあり方を考える姿勢を大切にしています。

たとえばSFPCのカリキュラムのひとつ「コンピューテーションにおける詩と政治学」と題した講義では、コンピューターを用いて表現や創作を行うことの文化的背景を学び、それに伴う倫理的／社会的な問題を考え、議論します。ほかにもコンピューターを扱ううえで必要となる計算の概念、電子工学、そしてそれらを用いた表現方法に関するさまざまな項目を10週間のカリキュラムで学んでいきます。こうした独自のカリキュラムは世界中のクリエイターや教育機関から注目を浴び、これまで日本人約10名を含む200名以上の卒業生を輩出しています。

アメリカ以外では初の開催となる今回の集中ワークショップでは、SFPCのカリキュラムからYCAM向けにアレンジしたものに、YCAMが開発した教育プログラムを融合させ、1週間に渡って実施します。課題の抽出と適切な解決方法の案出のための思考法「コンピューテーショナル・シンキング」の重要性が高まりつつある今日における、「新たな学びのかたち」を提示し、共有することを目指します。

■ ザカリー・リーバーマン

SFPC共同設立者で、「openFrameworks」共同創始者、メディア・アーティスト、プログラマー。アートの展覧会や教育の現場で活動し、あそび、コミュニケーションの本質、可視／不可視の間の微妙な境界に迫るユニークな方法でテクノロジーを扱う。ジェスチャー入力や身体の拡張についての研究開発を取り入れたパフォーマンス、インスタレーション、オンライン作品等を多数制作。「Opensourcery」では、スペインの魔術師マゴ・ジュリアンと協働し、オープンソース・ソフトウェアと伝統的なマジックとの組み合わせによって新しいトリックの領域を開拓。2012年ロンドンオリンピックに合わせて開催された「London 2012 Festival」に光を使用した巨大な作品をMolmol Kuoとともに発表するなど、欧米を中心とした美術館やフェスティバルに多数参加している。「Drawn」は、アルス・エレクトロニカとCYNETartで受賞。現在パーソンズ美術学校（ニューヨーク）で教鞭を執る。

■ チェ・テユン

SFPC共同設立者で、ニューヨークとソウルを拠点に活動するアーティスト、エドューケーター、アクティビスト。シカゴ美術館付属美術大学卒業後、SFPCを共同設立し、現在も同校の教員として携わる他、ティッシュ・スクール・オブ・アートのITP大学院やニューヨーク大学でも教鞭を執る。作品は、パフォーマンス、電子工作、ドローイング、インスタレーションを通じて、公共の場におけるストーリーテリングを立ち上げる作品を多数制作。最近では、障害者と健常者の境界のない、アートとテクノロジーの領域におけるアクセシビリティとインクルージョンに注目している。Eyebeam Art and Technology Center(NY)での個展の他、手がけたプロジェクトはホイットニー美術館などの多くの有名美術館で紹介されている。世界各地の大学やアートセンターなどでレジデンスプログラムに参加している他、委嘱作品も多数制作。

開催概要

SFPC Summer 2019 in Yamaguchi

2019年9月4日(水) - 11日(水) ※8日間通し/9月8日(日)は休講
山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB、スタジオD

スケジュール

DAY1: オリエンテーション
DAY2: コンピューテーションと芸術的实践
DAY3: エレクトロニクスとフィジカルコンピューティング
DAY4: 創造的实践としての言語設計 &
トークイベント「詩的なコンピューテーションとは何か?」
DAY5: 環境を読み取り直し、ハックする
DAY6: 教育学、学び教えるための戦略
DAY7: SFPC Summer 2019 in Yamaguchi 報告会

講師: チェ・テユン、ローレン・ガードナー、メラニー・ホフほかSFPC講師陣

参加費: 50,000円(要申込)

定員: 20人(選考あり)

対象: 英会話ができる高校生以上で、コンピューターを用いた表現に興味がある方

持ち物: ラップトップ・コンピューター1台、筆記用具

※参加費は現地でクレジット払いが可能です

※参加費には本イベントで使用する材料代は含まれていますが、食費と宿泊費は含まれません

※本イベントでは、SFPCの意向により女性、LGBTQ、障がい者、そして経済的に困窮している人々のための参加費の減免制度が用意されています。詳細については、お問い合わせください

※参加者にはプログラミング経験の有無は問いません

※他の参加者、SFPC講師陣、YCAMスタッフとの知識の共有や共同作業に意欲的な方をお待ちしております

※未成年者の参加には保護者の許可が必要です

主催: 山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援: 山口市教育委員会

助成: 2019年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

共同開発: YCAM InterLab

企画制作: 山口情報芸術センター [YCAM]

関連プログラム

トークイベント「詩的なコンピューテーションとは何か?」

9月7日(土) 18時~20時 山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

無料※要申込(申込方法など詳細はウェブサイト参照)

SFPC Summer 2019 in Yamaguchi 報告会

9月11日(水) 13時~17時 山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

無料※要申込(申込方法など詳細はウェブサイト参照)

■ 申込方法

受付締切日: 7月9日(火)

選考結果発表: 7月26日(金)

下記ウェブサイト内に用意された申込フォームに必要事項をご記入ください。

※申し込みフォームは英語のみになります

ウェブサイト:

www.ycam.jp